

仕様書

1. 件名

SIP3 量子/BRIDGE6 施策シンポジウム 2024 (ハイブリッド開催) の運営業務

2. 目的

内閣府「戦略的イノベーション創造プログラム」(以下「SIP」という。)の第3期課題「先進的量子技術基盤の社会課題への応用促進」と、研究開発と Society 5.0 との橋渡しプログラム BRIDGE のうち、量研を研究推進法人とする 6 施策が連携し、広報活動の一環としてハイブリッド型のシンポジウムを開催する。このシンポジウムを円滑に運営するために必要な業務を実施する。

3. シンポジウムの開催日時

令和 6 年 10 月 29 日 (火) 13:00~17:00 (予定)

※現時点でのプログラムは別紙 2 の通り。

4. 開催方法

リアル開催とオンライン開催を併用するハイブリッド開催

5. 業務期間

請負契約締結日よりシンポジウム開催日以降の開催報告事務終了の日まで

(開催報告事務終了の期限: 令和 6 年 11 月 29 日 (金))

6. 納入場所 (担当場所)

〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2 丁目 2 番 2 号 富国生命ビル 22 階

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 SIP 推進センター

7. 業務内容

(1) ハイブリッドシンポジウム運営

ア. 開催場所の確保

- I. 会場のシンポジウム参加者及びスタッフを合わせて 500 名程度を想定し、公共交通の便の良い東京都 23 区内かつ、最寄駅から徒歩でのアクセスが容易な会場を量研と相談の上、手配すること。また、会場借上交渉も含めた契約手続きを行うこと。

会場の手配にあたっては、機材の設置や入場可能数に応じた通路の幅員、席の

間隔について十分な広さを確保すること。

- II. 当日午前中のリハーサル開始時間までに機器の搬入・設置・接続テスト・椅子の配置などを完了すること。(必要に応じてリハーサルに支障をきたさないよう前日に会場を確保すること) 開催前日の準備及び、当日の準備、撤収に十分な時間を確保すること。
- III. シンポジウムを行う会場の他、A0 サイズのポスターが 60 枚程度設置できるポスターセッション用の会場 1 部屋 (12 枚程度の部屋と 48 枚程度の部屋の 2 部屋に分けることも可)、80 m²程度の登壇者控室を 1 部屋、来賓用個室 2 部屋、7 名程度が入室可能な事務局用控室、5 名程度の打ち合わせ用個室 1 部屋の計 6 室以上があること。
- IV. 新型コロナウイルス感染拡大防止のガイドラインに従い、会場では適切な感染防止対策を講じること。

イ. 参加者の募集と対応等に係る事務

- I. シンポジウム参加希望者が申込みをする WEB サイトを作成し、参加申込を受け付け、オンライン参加希望者にはオンライン参加用 URL を案内すること。
- II. 告知用のチラシのデータを当機構担当者と協議の上制作すること。サイズは A4 で PDF のカラー2 ページとし、チラシのデータを当機構担当者と協議の上、提出をすること。
- III. 本シンポジウムの実施及び参加者募集を広く周知するためのニュースリリースを量研と相談の上作成し、発信すること。
- IV. 告知用のバナーを制作すること。サイズは幅 1100px×高さ 500px 程度とする。
- V. 一般参加者、関係者を含めたすべての参加予定者リストを作成し、適宜当機構担当者に報告をすること。
- VI. 来場者及びオンライン参加者用のアンケートを回答する web サイトを作成し、回答を集計すること。アンケートは 30 問程度で当機構から支給する。集計の結果は報告書と共に当機構に提出すること。

ウ. 制作物関連業務

- I. シンポジウムの進行全体に関する台本と運營業務に関するマニュアルを作成し、1 週間前までに最終稿を提出すること。
- II. 進行台本は、時系列に沿って記載すること。投影状況等が容易に理解できるよう、進行状況と併せて記載すること。
- III. 運營業務マニュアルは、シンポジウム当日の運營業務等について業務毎に分かりやすく記載すること。なお、必須記載項目は別紙 1 に記載する項目とし、

必要に応じて、必須記載項目以外の項目も記載すること。

- IV. 台本は契約後、当機構担当者と協議の上、上記担当部門宛に提出すること。電子ファイルは、Microsoft 社の PowerPoint 又は word 等、書き換え可能な電子ファイルとすること。1 週間前までに最終稿を提出すること。

エ. 会場設営および運営

- I. 成果報告およびトークセッションの実施に必要な照明機材・音響機材を含めた会場の設営を行うこと。また、トークセッションはファシリテーターを含めて 5 名程度とし、各演者にノート PC を用意すること。
- II. 会場はスクリーンや机、椅子、パーテーション等を当機構担当者と打ち合わせの上、設営と撤去を行うこと。ステージの吊り看板は不要とする。
- III. 必要に応じて、開催前および終了後にノベルティやパンフレット等、量研東京事務所と会場間の荷物の輸送を車両により行うこと。ただし、量研東京事務所から 300m 以内の会場は不要とする。
- IV. ポスターセッションの準備をすること。ポスターセッション用パネル 60 枚程度には必要に応じてクリップ式ライトなどの照明機器を設置し、量研からデータ支給をしたポスターを印刷して貼ること。机、椅子等は量研と打ち合わせの上設営と撤去を行うこと。
- V. 総合司会 1 名を用意し、シンポジウム当日の司会進行を滞りなく行うこと。
- VI. ポスターセッションの出席者 (400 名程度) にコーヒー又は紅茶その他ドリンクを提供すること。
- VII. 講演者や会場の様子等をスチール撮影すること。なお、写真の一部はシンポジウムの開催報告で SIP3 量子のサイトに掲載されるものとする。

オ. 技術サポート

- I. 請負者は 500 名の配信に必要な機材、配信システム、回線を用意すること。
- II. 配信中に機材の不具合、障害が生じた場合はただちに対処し、以降の運用に支障が出ないように対策を施すこと。
- III. 当日午前中までに発表者全員とリハーサルを行い、スムーズに進められるように録画を検証し、問題があれば開催時間までに改善をすること。

カ. 照明音響の運用

- I. シンポジウムの開催に必要な照明機材・音響機材について、会場担当者と打ち合わせの上、4. (1)エ. (ア) で作成した進行台本に基づいて運用すること。
- II. シンポジウム当日は、スタッフ及び機材を適切に配置し、運営を行うこと。

キ. シンポジウムにおける講演演出

- I. シンポジウムはライブを基本とし、必要に応じてウェビナーなどを使用して登壇者の事前収録を行い、当日投影すること。
- II. シンポジウム開始時に投影する音楽付きのシンポジウムタイトルスライド1枚を制作すること。フリー音楽素材等も利用可能とするが、著作権を侵害しないものを使用すること。
- III. 講演動画が単調にならないように、2台以上のカメラを用いるなどして、撮影を行うこと。

(2) 事後提出物

シンポジウム終了後、令和6年10月30日（水）までに7.(1)エ.VIIで撮影した写真を提出すること。また、令和6年11月29日（金）までに開催報告書（講演内容の記録）のPDFデータおよび記録動画を提出すること。

8. その他

注意事項

- (1) 3年以内に参加者が700名以上のハイブリッド開催によるシンポジウムの運営業務を3件以上担当した経験を有すること。
- (2) 成果物に係る著作権は当機構に帰属するものとし、著作者人格権の行使は行わないものとする。
- (3) 請負者は本業務において当機構から取得した情報について、本業務の遂行に用いる場合を除き、当機構の事前の書面による承諾なく、第三者に対して開示または漏洩してはならないものとする。
- (4) その他の運営等については当機構担当部門と連絡を取り合うこと。
- (5) 天災等により、やむを得ず仕様書通りの事業の開催が困難な場合などの不測の事態への対応は、当機構と協議の上、方針を決定し、必要に応じて変更契約等を行うこと。既に履行した業務に係る経費については、履行が完了したことが確認できる書類を提出し、精査した上で、実費精算のみ請求できることとする。
- (6) 当機構職員が所定の要件を満たしていることを確認したことをもって検査合格とする。
- (7) 本仕様書に疑義が生じた場合は、当機構と協議の上決定すること。

所属部課 SIP推進センター

要求者氏名 水牧 美智子

運營業務マニュアル必須記載項目

仕様書 7. (1)ウ. I. 記載の運營業務マニュアル必須記載項目は下記の通りとする。

記

1. 開催概要
2. プログラム
3. 運營業務実施体制図
4. 危機管理体制図（誰が責任者で、非常時は誰がどの順番でどこに連絡するかという具体的な体制が図式的にわかるような資料）
5. 使用機材・備品一覧
6. 非常時マニュアル（非常時及び災害時の避難導線）

以上

SIP3 量子/BRIDGE6 施策シンポジウム 2024 (ハイブリッド開催)
プログラム (案)

開催日時：2024年10月29日(火) 13:00-17:00 (予定)

開催方法：会場及びオンラインのハイブリッド開催

プログラム：

13:00-13:10 開会挨拶

川上大輔 内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局審議官
小安重夫 量子科学技術研究開発機構 理事長

13:10-13:20 事業概要説明

プログラムディレクター (PD)
寒川哲臣 日本電信電話株式会社 先端技術総合研究所

13:20-14:00 SIP3 量子 成果報告

量子コンピューティング
サブPD：堀部雅弘 産業技術総合研究所
量子セキュリティ・ネットワーク
サブPD：花岡 悟一郎 産業技術総合研究所

14:00-14:10 休憩

14:10-14:50 SIP3 量子 成果報告

量子センシング
サブPD：大島 武 量子科学技術研究開発機構
イノベーション創出基盤
サブPD：岡田俊輔 一般社団法人量子技術による新産業創出協議会
(Q-STAR)

14:50-15:15 BRIDGE 成果報告

大規模量子コンピュータ向け制御装置の事業化
大規模量子コンピュータ
向け制御装置の事業化
研究責任者：伊藤 陽介 キュエル株式会社 代表取締役
量子ハイブリッド最適化アルゴリズム基盤の開発
研究責任者：山城 悠 株式会社 Jij 代表取締役 CEO

量子光センシングによる超低侵襲量子生命技術

研究責任者： 福田大治 国立研究開発法人産業技術総合研究所
物理計測標準研究部門 首席研究員

15:15-15:25 休憩

15:25-15:50 BRIDGE 成果報告

量子プロダクト事業化推進プラットフォーム構築事業

研究責任者：大関 真之 東北大学大学院
情報科学研究科情報基礎科学専攻 教授

多元素活用を基盤とした生体イメージング技術革新

研究責任者：清中 茂樹 国立大学法人名古屋大学 工学研究科 教授
フォトリック結晶レーザー(PCSEL)によるスマート製造ゲームチェンジと
PCSEL 拠点からの社会実装拡大

研究責任者：野田 進 国立大学法人京都大学 大学院工学研究科
教授

15:50-16:35 トークセッション

(寒川 PD、平山 PM、ゲストなど 5 名程度)

16:35-16:45 総括

須藤 亮 内閣府 政策参与・プログラム統括

16:45-16:50 閉会挨拶

伊藤久義 量子科学技術研究開発機構 理事

※ポスターセッションは 18 : 00 まで